

北大フロンティア基金 活動報告書

令和4年度



150th
HOKKAIDO UNIVERSITY



目次

02	総長あいさつ
03	実施事業報告01 農学研究院教授 西邑 隆徳
05	実施事業報告02 獣医学研究院助教 青島 圭佑
07	実施事業報告03 総合博物館教授 小林 快次
09	実施事業報告04 奨学金・奨励金給付事業
12	実施事業報告05 人材育成事業
13	北大フロンティア基金 令和4年度の概要
15	創基150周年記念募金と 支援事業一覧
19	寄附申込方法
21	遺贈について
22	寄附者の皆様への御礼

北海道大学創基 150周年に向けて



北海道大学総長 寶全 清博

平素より北海道大学の教育研究を支える「北大フロンティア基金」に、深いご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

このたび、令和4年度の北大フロンティア基金の活動報告書を取りまとめましたので、ぜひご一読いただければ幸いです。

大切なステークホルダーである皆様のおかげをもちまして、令和4年度の北大フロンティア基金は、総額4.8億円余りに達しました。平成18年度の創設からこれまでの累計でも約63億円に達し、心から御礼申し上げます。

本学は令和8(2026)年に創基150周年を迎えます。北海道の広大な土地に唯一の総合大学として発展し、他に類を見ない個性を形成してきました。その結果、①世界最大級の研究林と豊かな海洋研究に代表されるフィールド研究、②世界最先端をリードする複数の卓越研究、③地域課題解決を目指す社会展開力、④SDGsに繋がるサステナビリティの考えを大学創成期から持っていたことなど、極めて個性的な強みが醸成されてきました。

本学は、このアイデンティティを、科学技術における教育・研究の卓越性「Excellence」と、教育・研究を社会に広げ地域課題を解決する社会展開力「Extension」という2つの軸の座標系で捉え、好循環・エコシステムを創成し、次の150年に向けて大きく飛躍させることを目指しています。

北大フロンティア基金は、2023～2026年度の4年間、次の150年を見据えた記念事業を進めるための「創基150周年記念募金」として活動します。

今後は、本学の中期的ビジョンである「HU VISION 2030」を通して、世界共通の目標である「持続可能なWell-being社会」の実現に向けて力強く歩みを進めますので、皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。

思いは、熟成し、実現へ。

先人への思い・未来への思い

～昆虫学及養蚕学教室・標本室の再生～

二十八星瓢虫(にじゅうやほしてんとうむし)。松村松年が1895年に著した卒業論文では、当時の北海道における二十八星瓢虫による作物被害状況が記述され、この虫を形態学的、生理学的及び生態学的に観察・考察した上で、その防除策と駆除策が提示されています。昆虫学・養蚕学の知見は北海道農業の発展においてたいへん重要でしたが、札幌農学校開校当時はカリキュラムには組み込まれておらず、John C. Cutterが動物学の中で昆虫についても講じているだけでした。Cutter帰国後は、2期生の足立元太郎が養蚕学の傍らその任に当たり、その後は、9期生の橋本左五郎が担当しました。この橋本の講義を受けた学生の一人が松村松年でした。松村松年は卒業後、札幌農学校に研究生として残り、昆虫学を担当するようになります。1901年には昆虫学及養蚕学教室が竣工し、1927年に建てられた標本室には30万点以上の昆虫標本が収蔵されていたとされています。松村は「害虫駆除全書」、「日本昆虫学」などの名著を残し、命名した昆虫は1,100種にも及びます。

北大キャンパスに現存する最古の建物である旧昆虫学及養蚕学教室は、120年の風雪に耐えてきましたが老朽化が著しく、耐震強度も現在の基準に適合していませんでした。今、先人たちのお陰で、この美しいキャンパスを享受している私たちは、未来のキャンパスに集う人たちのために何を為すべきでしょうか。明治の時代に明日の農業を夢見る若者たちが熱い思いを抱いて学んだ場所を再生し未来につなぎたい、建物を保存してただ眺めるのではなく歴史的な価値の上に新たな機能を付与して使いながら後世に残したい、と思うのです。



農科大学昆虫学標本室内部(北海道大学附属図書館所蔵)

農学研究院

西邑 隆徳 教授

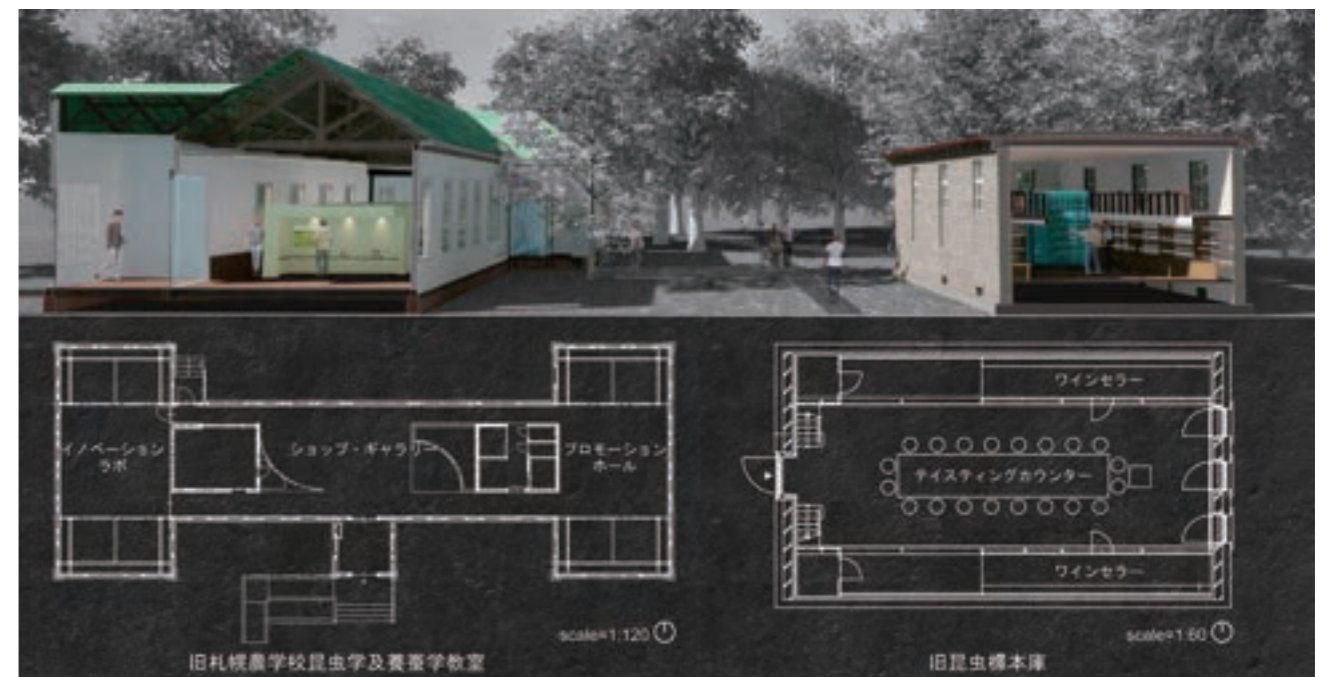
本文中に登場する橋本左五郎(畜産第一講座初代教授)の流れを汲む畜産科学分野教授。2019～2021年度には農学研究院長を務めた。2021年度より「エルムの森プロジェクト」を実施。

歴史的建造物をワイン研究センターへ。
構想は、皆さまにご支援いただき、実現へ。

近年、北海道では、気候の温暖化もありワイン生産が盛んになっています。2022年春には農学研究院に寄附講座「北海道ワインのヌーベルバーグ研究室」が設立されました。この取り組みをさらに発展させるために、歴史的価値を有する旧昆虫学及養蚕学教室・標本室を保存改修し、北海道における新しい農業食品産業を創生する場として「北海道ワイン教育研究センター棟・熟成庫」を設立することを構想しました。これが採択され約1億円の予算を獲得しましたが、改修費用にはまだ足りませんでした。そこで、北大フロンティア基金内に「エルムの森プロジェクト」を立ち上げ、北大に縁のある方々、道内外の企業にご支援をお願いしましたところ、多大なるご寄附をいただき、改修を進めることができました。ご支援いただきました皆さまには心より感謝申し上げます。



天井の意匠が復刻されたプロモーションホールにはシャンデリアが設置された



北海道大学大学院工学院建築デザイン学研究室作成。実際の内装写真は裏表紙にも掲載しています。

春楡の下、ワイン片手に語り合う。
そんな風景を、100年先まで。

2022年11月から始まった改修では、外観はもちろん内部もなるべくオリジナルを保存しながら補強工事が施されました。梁は120年前そのままに補強、一度剥がした床材や腰板は再利用し、天井の意匠も復刻再現しました。2023年7月末に建物工事は完了し、現在、内部の設備・家具等の設置を進めているところです。旧昆虫学及養蚕学教室の左(西)側のウイングにはブドウやワインの分析を行うイノベーションラボを配置しました。また、右(東)側のウイングはワインセミナー等を行うプロモーションホールとして、一般の方々にも利用していただきたいと考えています。この建物の周りに自然と人々が集い、春楡の木陰でワインを片手に、生産者や市民、学生、研究者、同窓生が普段に語り合う、そんな穏やかで豊かな空間となることを願っています。きっと100年先も、この建物は、キャンパスを行き交う学生たちに「北大物語」を静かに語り続けてくれることでしょう。

北海道ワイン教育研究センターへの寄附はこちらから ▶



獣医学研究院
青島 圭佑 助教

北大クラウドファンディング第1号として
「血管肉腫を治療可能にするために、
基礎研究を加速させる」を実施
(募集期間:2022年11月1日~12月26日)。

犬がかかる悪性のがん 「血管肉腫」とは

血管肉腫は血管を作る血管内皮細胞由来のがんであり、犬で高頻度に発生します。有効な治療法は未だに無く、手術と抗がん剤による治療を行っても1年後の生存率は16%に満たないと言われています。新しい治療法を見つけるためにも、血管肉腫の病態を詳しく調べる必要があるのです。血管肉腫は人においても悪性度が非常に高く、有効な治療法が未だに存在しない疾患の一つです。しかし、人では希少がんの一つであり、100万人に2、3人の割合でしか発生しません。そのため、医学領域においても研究は十分に進んでいないという状況です。我々は犬の血管肉腫を対象に研究を行っていますが、人の血管肉腫の治療にも応用できる結果を出していきたいと思っています。病気に種の垣根はありません。血管肉腫を患う人も含めたすべての動物たちを救うことが使命だと思っています。

クラウドファンディングへの挑戦。 資金以上に嬉しかったのは、 応援でした。

研究資金を得ることがクラウドファンディング実施の一つの理由ですが、それ以上に研究を応援してくれる人のもとコミュニケーションを取りたい、という思いがありました。クラウドファンディングではウェブサイトを通して支援者の方々と直接やり取りをすることができます。研究の進捗情報を共有したり、成果をお知らせしたり、支援者の方々とともに研究を上げることができるのが、他の研究資金獲得方法にはない、クラウドファンディングの最大の魅力です。実際にクラウドファンディングを行い、ご愛犬、ご愛猫、そしてご家族を血管肉腫で亡くされた方々、獣医療の研究発展を望む方々、たくさんの方々に応援メッセージをいただきました。いただいたメッセージは我々が研究を行う上での大きな原動力となっています。ご支援いただいた方に、心より御礼申し上げます。

血管肉腫に苦しむ犬たち、 そして人々のために研究に 取り組んでいきたい

いよいよ本番の実験へ。
成果を待つ人々のために、
犬たちのために。

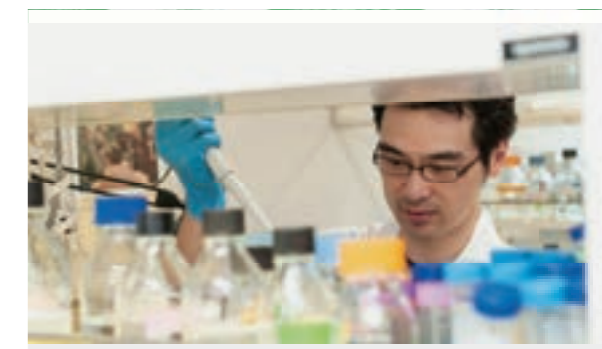
今回のクラウドファンディングでは目標額を大きく上回る520万円のご寄附をいただくことができました。そしてついに我々が行いたかった実験、シングルセル解析を行うことができます。この原稿執筆時点(2023年7月末)において、予備実験が全て終了し、いよいよ本番の実験を行う直前という状況です。シングルセル解析の全てが終了するまでは数ヶ月がかりますが、これによって血管肉腫のがん細胞一つ一つの特徴を明らかにすることができます。得られる結果の中には、治療法に繋がるヒントが必ず眠っているはずです。ご寄附いただいた方、サポートいただいた方々に良い研究成果をお知らせできるように、これからも全力で研究を進めて参ります。また、今回のクラウドファンディングを通じて、改めて我々の研究の重要性を認識しました。研究の発展を望む方がたくさんいることを忘れず、血管肉腫に苦しむ犬たち、そして人々のために研究を行っていききたいと思います。



第7回定例記者会見の様子。北大公式クラウドファンディング第1号の発表を行う青島助教。

多くの人びとに支えられながら、 プロジェクトは大成功。

実施に当たって、クラウドファンディングサービス「READYFOR(レディーフォー)」のスタッフ2名(キュレーター)が専属でサポートをしてくださり、準備から実施に至るまで約半年間、共に駆け抜けました。「READYFOR」のシステム、キュレーターの的確なアドバイスやサポート、これらが無ければクラウドファンディングは成功しなかったでしょう。「北大公式クラウドファンディング第1号」として、定例記者会見でプロジェクトを紹介したことで、多数のメディアとも繋がりました。その効果は凄まじく、あっという間に第一目標を達成することができました。北大の公式ホームページやSNSからのウェブページ流入も非常に多く、本プロジェクトは大成功を収めました。教育・研究の合間に行うことは大変ではありましたが、学部を超えて様々な方々とプロジェクトを進めることができたのは非常に楽しく、そして学ぶことの多い経験となりました。改めて皆様方に御礼を申し上げます。



血管肉腫に関する研究(青島先生)
への寄附はこちらから ▶



恩返しとして、

日本の素晴らしさを伝えていきたい

「先生、寄附がありました」

それは、夢のようなニュースでした。

ある日、私に夢のような連絡が来ました。「小林先生、寄附がありました。調査に使ってくださいとのことです」。私は、恐竜発掘調査と研究をしています。恐竜は、子どもたちに夢を与え、新しい世界に導いてくれるトピックスです。ただ、恐竜研究は成果を出すのに十年単位で時間がかかる「スローサイエンス」であり、皆さんが考えている以上にお金がかかるため、その資金を探すのに毎年苦労しています。



滑走路がないため移動には海岸に着陸できるセスナ機を使用する(米国アラスカ州)



今回の調査では多くのハドロサウルス科の跡が見つかった(米国アラスカ州)

そんな中、私たちに救いの手を差し伸べる、嬉しいニュースが飛び込んできたのです。寄附をいただいたおかげで、私は米国アラスカ州のアニアクチャック国立公園・国立保護区での調査と、ウズベキスタン東部のフェルガナ盆地における調査を行うことができました。アラスカ調査では、セスナで調査地に移動し、ハイログマに毎日遭遇しながら白亜期末の恐竜足跡化石を発見し、古気候・古環境の変化による恐竜の生態を明らかにしました。また、ウズベキスタンでは、タジキスタンとキルギスの国境付近で、地雷を避けながらジュラ紀と白亜紀の地層を調査し、恐竜の多様性やティラノサウルスの世界制覇への過程を明らかにしてきました。

北海道大学総合博物館

小林 快次 教授

海外での発掘調査の他、日本国内の新種発見にも多く携わる。2019年に新属新種に認定されたカムイサウルス(通称「むかわ竜」)の発掘に大きく貢献した。

フロンティア精神で切り拓いた 恐竜研究者への道。

私がこれまで発見した恐竜の全身骨格は100個以上になります。いつもたくさん見つけるため、ついたあだ名が、「ファルコン・アイ(ハヤブサの目)」。化石は必ずあると信じ、人と同じ場所は探さない。見つからない日々が続いても、それは、明日見つかる確率が上がったということ。つらい一歩が、楽しい一歩になる、そんな精神で恐竜発掘を行ってきました。これが北大が掲げるフロンティア精神に繋がっていると感じています。北大に着任してから18年が経ちましたが、北大の豊かな“土壌”のおかげで、私も研究者として成長することができました。



人の歩いた形跡のない歩きづらいところを敢えて歩く「ファルコン・アイ(ハヤブサの目)」(ウズベキスタン)

化石発掘は、 その町の「宝」を見つけること。

私が大切にしていることは、「恐竜研究がどのようにして人のためになっているか」です。独りよがりの研究ではなく、研究成果をいかにして社会に還元できるか。現地の人と一緒に恐竜という「ダイヤモンドの原石」を見つけて、みんなで原石を磨き、その価値を高めることが大切だと思っています。日本での発掘でも同じで、北海道大学が発掘をしても大学のものということでは決してなく、化石はそれが発見された町や村、市の宝なのです。日本史上、最高の恐竜全身骨格化石であるカムイサウルスは、北海道むかわ町の宝であり、同時に日本の財産ですし、その価値を認識するお手伝いをさせてもらっているのが研究者なのです。



紛争地域で発見された骨格標本調査の様子(ウズベキスタン)

世界を歩きながら実感する、 日本の素晴らしさ。

私が声を大にして言いたいのは、日本には日本人が誇れるものがたくさんあるということです。その割に、日本人は日本のことを愛することができない人が多いように感じます。私は、すぐ近くにある「宝」に気づいていただき、それを世界の人々に自慢してほしいと思います。冒頭に紹介したように、私は世界を渡り歩いて恐竜化石を探し回る日々を過ごしていますが、世界を知れば知るほど、北大の素晴らしさ、北海道の素晴らしさ、日本の素晴らしさを肌で感じています。それも、寄附をいただけたおかげであり、その恩返しのために今後も日本の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。



北海道大学総合博物館収蔵庫にて

総合博物館への寄附はこちらから ▶



新渡戸カレッジオナーズプログラム 大学院教育コース奨学金

受給者から 感謝の声

奨学金のおかげで臨床現場を体験。
ネパールでボランティア活動に従事できました。



生命科学院 生命科学専攻 修士課程
(生命医薬科学コース)

2年 内田 涼子

この度は新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院教育コース奨学金に採用していただき、誠に感謝しております。私は現在有効な治療法がなく苦しんでいる人を、新薬創出を通して助けたいという思いを持って 大学院で薬学の研究をしています。患者が抱える苦痛を実臨床から学びたかったのですが、これまで機会はありませんでした。しかし奨学金のご支援のおかげで、ネパールでの病院ボランティア活動に従事し、臨床現場で活動することができました。この活動で得た学びを活かして、今後の新薬創出や医療の発展に貢献したいです。最後になりましたが、ご支援をくださった全ての方々にも心よりお礼申し上げます。

新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院教育コースの履修を許可された学生に対する返済義務のない給付型奨学金です。オナーズプログラムは、基礎プログラムを優秀な成績で修了した学生に対して参加を認めています。令和4年度には20万円を24名に給付しました。

支援のおかげでアルバイトの時間が減り、
学業に専念することができました。



公共政策学教育部 公共政策学専攻
公共経営コース

1年 竹内 大輔

フロンティア基金寄附者様、私たち学生に多額の寄附をしてくださり、本当にありがとうございます。私は現在、北海道大学公共政策大学院で、アメリカ外交の研究をしています。以前は、学費を補うために一週間のほとんどをアルバイトに費やしている状況でした。そんな中、寄附者様からの支援のおかげで、アルバイトの時間を減らすことができ、学業に専念することができました。現在は、その空いた時間を使い、米国在札幌総領事館での長期インターンに参加させていただいております。いただいた寄附者様の想いを社会に還元できるように、支援のバトンを繋いでいけるような人に成長していきます。本当にありがとうございました。

ニトリ海外留学奨学金

本学と大学間交流協定および部局間交流協定等を締結している大学へ留学を希望する学生のうち交換留学制度を利用して留学する学生を対象とした支援プログラムです。留学準備金10万円と生活費月5万円を支給します。

受給者から 感謝の声

クラスで一人だけの留学生。
最後までやり抜いたことが大きな自信になりました。



文学部 人文科学科 (言語・文学コース)

3年 内藤 遥

最初の学期である秋学期、専攻である英米文学の授業は、学生が主体的に発言していくスタイルで行われました。最初は慣れなかったのですが、徐々に積極的に手を挙げて発言していくことが楽しくなり、お気に入りの授業となりました。冬学期には、今まで難解で苦手と感じていた中期英語も、少しずつ読めるようになり、春学期は、複数の専攻科目を履修しました。このうち、「現代のアメリカ文学に関する授業」は冬学期に履修していたものの、新型コロナウイルス感染により一度断念せざるを得ず、再履修を決意して臨んだものでした。毎日読む量が非常に多いことに加え、抜き打ち試験があり、準備には現地学生よりも多くの時間をかけなければなりません。さらに、発言量によって成績が決定することがプレッシャーとなり、1人だけの留学生として、周囲と自分を比較しては劣等感を感じる毎日でした。しかし、最後までやり抜いたことが大きな自信につながりました。英語にも自信が付き、現地の日本文化会館で物を販売したり、中学校に行って日本語クラスでボランティアをしたり、大学外のアクティビティにも多く参加することができ、充実した期間となりました。

留学先 ワシントン大学
(アメリカ合衆国)

留学期間 2022年9月21日
~2023年6月15日(267日間)

北大・日立協働教育研究支援プログラム

博士課程の学生を対象とした研究支援プログラムです。令和2年度から3年間で一人当たり年間520万円を支給します。

受給者から 感謝の声

ミネソタ大学と連携し、
土壌微生物解析法を学ぶことができました。



国際食資源学院
国際食資源学専攻 博士後期課程

3年 大東 孝充

私達は主にアフリカなどの貧栄養土壌における微生物動態を研究してきました。本事業によるサポートによって、今までほとんどデータがなかったアフリカにおける貧栄養土壌の微生物コミュニティ動態が理解されつつあります。例えば、「硝化菌」というアンモニアを硝酸にすることができる微生物グループに関する研究では、アフリカでの農地開発によって特定の種類の硝化菌が増減することがわかってきました。硝酸は植物にとって栄養源となりますが、一方で過剰に存在すると周辺の水域汚染や温室効果ガスの原因ともなる物質です。このような基礎的な知見を蓄積することで世界規模課題である土地開発と環境問題が解決に導かれていくと私達は考えており、このようなプロジェクトが本事業によってサポートされていることを嬉しく思っています。また、土壌微生物研究は近年目覚ましく進歩しており、海外の研究者と強く連携しながら進めていく必要がありますが、そのような面でも本事業はサポートが手厚いと感じました。私達はアメリカのミネソタ大学と連携し、土壌の貧栄養化や硝化菌グループと微生物やミミズなどの土壌動物の関連性について調査し、その過程で様々な新たな土壌微生物解析法を学ぶことができました。若手研究者や学生が広く国際的なネットワークを構築する上でも本事業は非常に役に立っています。

分島亮研究奨励金

令和3年5月にご逝去された分島亮様(元北海道大学大学院理学研究院准教授)の意志を引き継ぎ、基礎研究を行う若手研究者の支援を願って理学研究院に創設された奨励金です。令和4年度には40万円を3名に給付しました。

受給者から感謝の声

今後も分島先生の思いに応えられる素晴らしい研究を目指したい。

この度、令和4年度分島亮研究奨励金を賜りました。私は化石試料を用いて生物の進化を理解する研究を進めています。私達人間を取り巻く世界、つまり自然のなりたちを理解する上で、生物がどのように誕生し、多様化してきたのか知ることは欠かせません。このテーマは理学だからこそ追究できるものです。一方で、このような基礎研究を行うポストドクに対する支援は限られています。本奨励金を研究遂行のための資金とすることで、研究を加速させることができました。また、授与式では、本奨励金が創設されるきっかけとなった分島先生のエピソードをお伺いすることができました。本奨励金のありがたさを実感するとともに、自分の研究者としての今後の人生と、その人生の先には何が残るのか、次の世代に何が残せるのか、考えさせられました。今後も分島先生の思いに応えられる素晴らしい研究を目指したいと思います。最後に、本奨励金をご寄附・創設頂いた分島哲様と分島敦子様、理学研究院の皆様にご心より感謝申し上げます。



授与式の様子。左から棚田学術研究員、金川事務部長、網塚理学研究院長、利嶋研究員、竹田博士研究員

理学研究院 地球惑星システム科学分野

博士研究員 竹田 裕介

その他にも、様々な支援を行っています。
ここにその一部をご紹介します。

フロンティア基金を原資とする奨学金

奨学金名称	給付対象
小島三司奨学金	アルツハイマー研究に携わる医学・薬学・理学・生命科学に所属する学生
住友化学グローバルリーダー育成奨学金	世界トップクラスの大学等へ留学する学生
クラーク外国人留学生助成金	学業・人物共に優秀かつ経済的援助を必要とする留学生
北海道大学インテグレイテッドサイエンスプログラム奨学制度	学業成績が極めて優秀な私費外国人留学生
北海道大学フロンティア基金 新渡戸カレッジ(海外留学)奨学金	交換留学・短期留学に行く新渡戸カレッジ生

実施事業報告

05

人材育成

事業

Report

ソーシャルビジネス 学生ベンチャー向けGAPファンド

ビジネスアイデアを持っている学生のチャレンジを応援するために「北海道大学産学・地域協働推進機構 ビジネスモデル開発チャレンジプログラム」を実施しました。

本プログラムは、学生のアイデアを具体的ビジネスモデルにブラッシュアップする取り組みに対し、一定の予算補助(上限25万円/人)をする事業です。自らの力でビジネスを興す力を習得してもらうこと、将来的なキャリアプランの一つに「起業」という選択肢を持ってもらうことで自己実現の機会を拡大することが狙いです。

初の取り組みではありましたが、18名もの応募をいただき、厳正な審査の結果、4名の方々を採択しました。



【令和4年度採択】

- 大学院水産科学院修士1年
吉田 大修

養殖シミュレーションによる
経済的支援ツール

- 大学院工学院修士2年
名合 虎之介

CO₂回収装置を利用した
グリーンプレミアム農業

- 工学部応用理工系学科2年
竹内 航平

組換え大腸菌を用いた
マイクロプラスチック回収販売事業

- 大学院情報科学院修士1年
辻口 輝

市民参加型の祭り運営を
実現するサービス『temaneki』

北大フロンティア基金は、平成18(2006)年、本学創基130年を期に、教育研究の一層の充実と自主性・自立性を発揮する大学としての使命を果たすために創設され、多くの方々からのご寄附に支えられています。令和4(2022)年度、北大フロンティア基金には、皆様の本学へのご理解と温かいご支援により約5億円の寄附を賜りました。心よりお礼を申し上げます。皆様からのたくさんのご寄附は、奨学金制度の充実や留学生への支援、研究活動、各学部の活動等、寄附の目的に沿って活用させていただきます。

北大フロンティア基金創設時からの累計

申込件数 **37,860 件**

寄附金額 **6,589,034,385 円**

(うち運用利息 260,614,304円)

受入報告令和4年度

申込件数 **4,856 件**

寄附金額 **552,502,398 円**

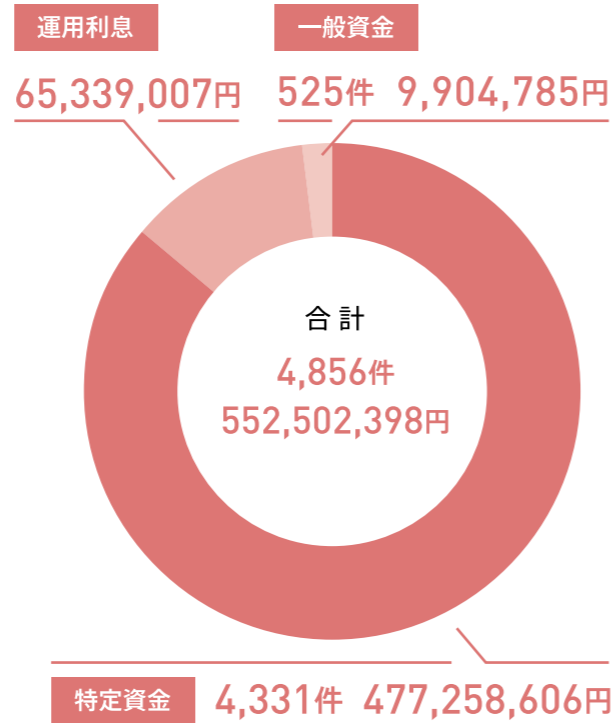
(うち運用利息 65,339,007円)

受入状況

寄附金額(令和4年度)

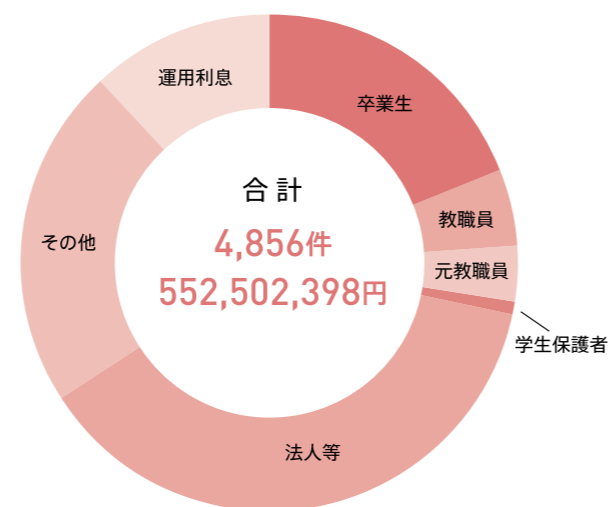
特定資金の内訳

学生支援	1,203件	74,585,899円
国際連携支援	39件	1,462,000円
研究支援	89件	4,046,600円
社会貢献活動支援	20件	118,635円
卒業生との連携支援	1件	10,000円
学部等支援	2,283件	303,561,712円
施設・環境整備支援	330件	73,541,760円
新渡戸カレッジ支援	47件	826,000円
修学支援	278件	18,084,000円
ポストク等研究者支援	38件	890,000円
産業界との連携支援	3件	132,000円



寄附者別内訳(令和4年度)

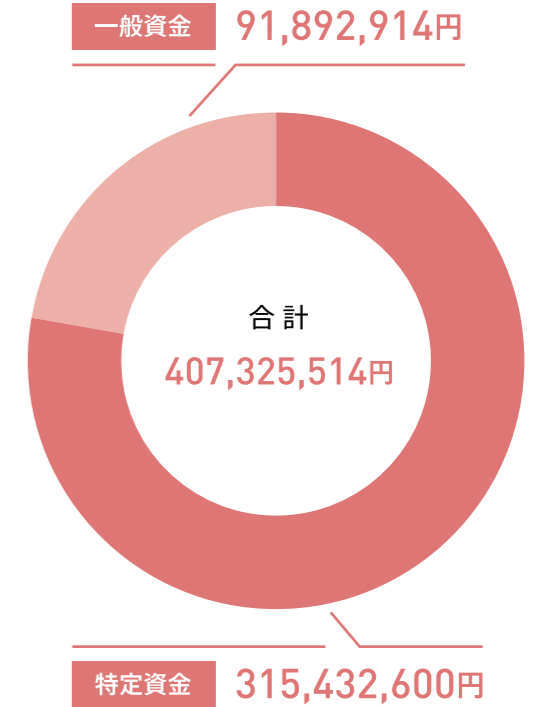
卒業生	2,112件	104,974,144円
教職員	1,320件	26,984,841円
元教職員	136件	20,752,622円
学生保護者	232件	4,739,000円
法人等	285件	206,720,130円
その他	771件	122,992,654円
運用利息	-	65,339,007円



支出状況(令和4年度)

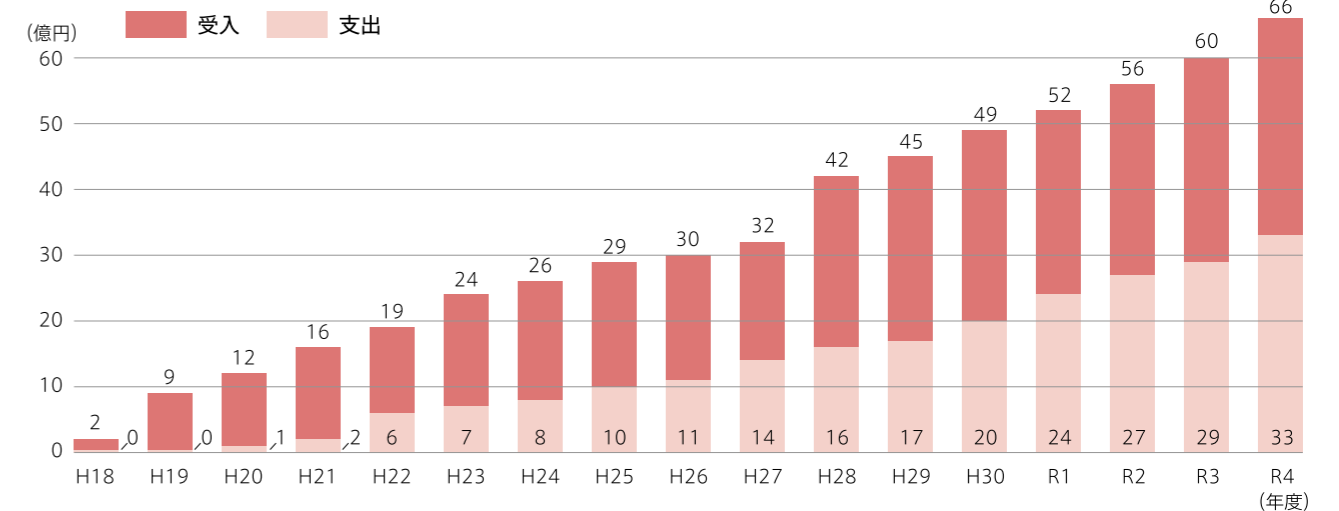
特定資金の内訳

学生支援	95,382,041円
国際連携支援	700,000円
研究支援	4,303,477円
卒業生との連携支援	915,971円
学部等支援	124,157,927円
施設・環境整備支援	84,133,184円
新渡戸カレッジ支援	5,040,000円
ポストク等研究者支援	800,000円



受入・支出累計額の推移

令和4年度末 残額 **3,278,298,621円**



※上記、受入・支出累計額には、運用利息を含みます。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。

多様な人材が持続的に新たな価値を生むキャンパスへの転換に向けた「人と人を、時を、緑を、夢を、実を、結ぶ」をキーコンセプトとする古河講堂の改修・利活用事業や、未来社会を創造する人材育成事業「Innovation Front Runner(仮称)」など、次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

光が三原色から成り立つように本学は、Sustainability、Innovation、そしてDiversityの3つのテーマを一体として推進することで、より明るい社会の実現を目指します。



Sustainability

150年先の未来を守るために

Diversity

多様性にひらかれた教育・研究の場

Innovation

世界の課題解決に向けて

光は、北から

Ambition to enlighten the world

大学全体への支援(一般資金)

用途を限定しないご寄附

2026年に創基150年を迎える北海道大学では、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮する総合大学としての使命を果たすため、北大独自の安定的な資金の確保をめざしております。「大学全体への支援(一般資金)」は、北大フロンティア基金による事業活動を行うための原資として、単独または本学の他の資金と併せて使用し、北海道大学全体の発展に役立てます。

特定資金

用途を限定したご寄附

国際連携支援

多様な国・地域・組織の人々との連携・協働を支援します。

社会貢献活動支援

学術研究と教育成果の公開促進、市民公開講座等の充実を図ります。

学部等支援

ご指定いただいた「学部(大学院)」、「学科(専攻)」、「研究室(講座)」の研究・教育環境充実を図ります。

新渡戸カレッジ支援

グローバル社会で活躍できるリーダーの育成を目指す特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を支援します。

ポストドク等研究者支援(税額控除対象)

学生または不安定な雇用状態にある研究者(ポストドク等研究者)が安心して研究を続けられるよう支援します。

学生支援

奨学金制度・顕彰制度のほか、課外活動・学生福利厚生施設等のさらなる充実を図ります。

研究支援

若手研究者の基礎研究を支援します。

卒業生との連携支援

卒業生同士の交流や新たな出会いの機会創出を支援します。

施設・環境整備支援

キャンパス緑化の他、札幌農学校第2農場や古河講堂等、歴史的建築物を後世に伝える取組を支援します。

修学支援(税額控除対象)

意欲と能力のある学生が経済的理由で修学・進学を断念することなく、希望する教育を受けられるよう支援します。

産業界との連携支援

教育研究環境を活用した産業界との連携強化を図ります。

特定プロジェクト

特定資金の中から現在寄附を募集しているプロジェクトの一部をご紹介します。

北の森林(もり)プロジェクト(北方生物圏フィールド科学センター)

北大研究林では、広大な森林フィールドを活用して、教員のほか、技術職員、森林技能職員を含むスタッフが、森林の再生・保全およびそれらに関わる教育・研究を行っています。これらの活動を通して、森林の持つ、二酸化炭素の吸収や生物多様性・生態系保全のはたらき、地域資源の有効活用など、国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献します。

北海道大学起業家育成基金

北海道においては、「困難な課題を乗り越え、新しい産業を創出する人材育成」が必要です。北海道大学が中心となり、北海道内の大学や高専・研究機関等と連携して「HSFC(エイチフォース)」というネットワーク組織を立ち上げ、北海道全域でアントレプレナーシップ人材育成やスタートアップ支援を進める体制を構築いたしました。この基金を活用し、札幌市が進める札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会とも協力して、大学発スタートアップによる「大学の知」を社会に還元していきます。

女子学生・女性研究者等ダイバーシティキャンパス実現プロジェクト

本学は、2021年12月に「ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言」を公表し、無意識の差別や偏見を乗り越えたバイアスフリーキャンパスの実現に向けて邁進しています。また、全ての構成員の尊厳が守られ、ひとりひとりが誇りを持ち、自らの可能性に挑戦できることを目指して、更なる意識改革及び環境整備を推進しています。

北大みらい投資プログラム

「北大みらい投資プログラム」は、同窓生の皆様を中心とする「個人からのご寄附」により、在学生の様々な活動をサポートすることを目的として、平成30(2018)年に北大フロンティア基金の中に創設されました。用途は、同窓生の皆様に在学生のサポートをお願いしたい4つの分野「給付型奨学金」「海外留学・インターンシップ等経費」「課外活動等支援資金(公認学生団体等を指定)」「用途指定資金(支援先任意※)」で構成されています。

※支援先未記入の場合は「海外留学・インターンシップ等経費」にて受け入れさせていただきます。

クラウドファンディング

北海道大学は、令和4年9月12日、日本初・国内最大級のクラウドファンディングサービス「READYFOR」を運営するREADYFOR株式会社と業務提携を開始しました。令和4年度は、10件のプロジェクトを公開し、すべて目標金額を上回る結果となりました。応援して下さった皆様に心より感謝申し上げます。国立大学を取り巻く環境が日々変わっていく中、クラウドファンディングを通して本学の社会的使命を真摯に伝えることで、卒業生、関係者ばかりでなく、地域住民の皆様、企業の皆様から、知の拠点として、本学をより身近に感じていただけるよう取り組んでまいります。

【令和4年度に募集を開始したプロジェクト】

	プロジェクトタイトル	所属/代表者	募集期間	目標金額	支援金額 達成率
達成	血管肉腫を治療可能にするために基礎研究を加速させる	獣医学研究院 助教 青島 圭佑	11月1日 ～12月26日	200万円	520万円 260%
達成	世界のクマ研究最前線「クマが生きられる環境を未来に残したい」	獣医学研究院 教授 坪田 敏男	3月1日 ～4月10日	500万円	894万円 179%
達成	ポータブルエコーで未来のプロ野球選手たちに肘検診を行いたい	北海道大学病院 助教 門間 太輔	3月1日 ～4月29日	700万円	802万円 115%
達成	血清亜鉛値に代わる、「味覚障害」の新たな指標の樹立に向けた研究を!	北海道大学病院 助教 坂田 健一郎	3月1日 ～4月29日	350万円	457万円 130%
達成	北海道の地で待望の肺移植、実現へ! 北大呼吸器外科の挑戦にご寄附を	北海道大学病院 教授 加藤 達哉	3月1日 ～4月28日	700万円	1,739万円 248%
達成	北海道の「避けられた外傷死」を撲滅するー外傷外科医育成プロジェクト	北海道大学病院 教授 平野 聡	3月1日 ～4月29日	500万円	1,246万円 249%
達成	折りたたみ式入れ歯を開発し、開口障害がある方も顎義歯を使えるように	北海道大学病院 医療技術補佐員 佐伯 和紀	3月1日 ～4月29日	600万円	620万円 103%
達成	希少がん「乳房外パジェット病」に対する、抗がん剤治療実施にご支援を	北海道大学病院 講師 柳 輝希	3月1日 ～4月29日	1,000万円	1,092万円 109%
達成	確かな医療を継続してとどけるために若手口腔外科医の育成にご寄附を	歯学研究院 教授 大廣 洋一	3月1日 ～4月28日	550万円	733万円 133%
達成	苫小牧研究林の魅力を伝えたい! ~資料館の休日開放と散策路の整備~	北方生物圏フィールド 科学センター 准教授 植竹 淳	3月1日 ～3月31日	150万円	284万円 189%

寄附申込方法

郵便振替・銀行振込によるご寄附



北大フロンティア基金の「払込取扱票(振込通知書)」をご利用ください。

ゆうちょ銀行・郵便局(口座振替・現金による払込)

口座振替による「払込手数料」は、本学が負担いたします。現金による払込の場合は、本学が負担する払込手数料とは別に、現金利用時の加算料金として、1件あたり110円が寄附者様のご負担となります。詳しくは、ゆうちょ銀行・郵便局窓口でご確認ください。

銀行振込

銀行窓口をご利用の場合は、振込金額とは別に振込手数料を寄附者様にご負担いただくこととなりますのでご注意ください。北洋銀行・北海道銀行の窓口をご利用の場合は、振込金額に関わらず振込手数料として、1件あたり110円を寄附者様にご負担いただきます。なお、現金自動預金支払機(ATM)やネットバンキングをご利用の場合は、寄附者様の特定が困難となりますので、できる限り金融機関の窓口をご利用いただくか、お手続き前に、北大フロンティア基金ウェブフォームへのご入力または「寄附申込書」にご記載の上、メール、FAXまたは郵送でお送りください。

クレジットカード決済によるご寄附



クレジットカード決済でお申しいただいた場合は、ご指定のカードにて自動引き落としをさせていただきます。寄附回数は、「毎月」「年2回」「年1回」「1回限り」から選択いただくことができます。申し込みから着金まで1~2カ月ほどかかる場合がございます。領収書の日付は着金日となりますのでご注意ください。

コンビニ決済によるご寄附



コンビニ決済でお申しいただいた場合は、後日、決済代行業者より、コンビニエンスストア収納用のバーコード付払込取扱票を送付いたします。お手元に届きましたら、お近くのコンビニエンスストアに払込取扱票をご持参いただき、現金にてお支払い下さい。窓口でのお支払いから着金まで1カ月ほどかかる場合がございます。領収書の日付は着金日となりますのでご注意ください。

北大フロンティア基金寄附申込ページはこちらから

個人の方 ▶



法人・団体の方 ▶



税制上の優遇措置

個人からのご寄附

「北大フロンティア基金」へのご寄附については、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金(所得税法第78条第2項第2号)として財務大臣から指定されております。

1 所得税が控除されます。

寄附金額(その年の総所得金額の40%を上限)から2,000円を引いた額を、所得税の課税所得金額から控除できます。「修学支援基金」及び「ポストク等研究者支援」にご寄附の場合は、下記の「所得控除」または「税額控除」いずれか一方の有利な制度をご選択いただけます。

《税控除のしくみ》

所得控除制度(北海道大学へのすべての寄附金が対象)

所得控除を行ったあとに所得税率を乗じるため、所得金額に対して寄附金額が大きい場合には減税効果が大きくなります。

$(\text{寄附金額}^{\ast 1} - 2,000\text{円}) \times (\text{所得に応じた})\text{税率}$
を所得税額から控除

税額控除制度

(「修学支援基金」及び「ポストク等研究者支援」への寄附金が対象)

所得税率に関係なく所得税額から直接寄附金額の一定割合額が控除されるため、多くの場合、所得控除制度に対して減税効果が大きくなります。

$(\text{寄附金額}^{\ast 1} - 2,000\text{円}) \times 40\% = \text{控除対象額}^{\ast 2}$
を所得税額から控除

※1 控除対象となる寄附金額は、その年の総所得額等の40%が上限となります。
※2 所得税の控除額は、その年の所得税額の25%が上限となります。

寄附金控除
シミュレーション▶



2 住民税が控除されます。

寄附をした翌年1月1日に本学を「寄附金税額控除対象法人等」として指定している地方自治体にお住まいの方は、寄附金額(その年の総所得金額の30%を上限)から2,000円を引いた額に対し、都道府県民税は4%、市区町村民税は6%を乗じた額が控除されます。(都道府県と市区町村双方の指定を受ける場合は10%となります。)

寄附金控除を受けるための手続き等について

寄附金控除を受けるためには、所轄の税務署へ所得税の確定申告書を提出してください。この場合、住民税の申告は不要です。確定申告をしない給与所得者又は年金所得者で、住民税の寄附金税額控除だけを受けようとする場合は、住所地の市区町村に申告してください。この場合、所得税の控除は受けられません。

法人によるご寄附(法人税の優遇)

「北大フロンティア基金」へのご寄附については、法人税法上の全額損金算入を認められる寄附金(法人税法第37条第3項第2号)として財務大臣から指定されております。ご寄附をいただいた寄附金は、法人の所得から控除され、税法上の優遇措置を受けることができます。

遺贈について

将来ご自身が遺される財産を本学の発展のために役立ててほしいとお申し出をいただく機会が増えております。北大フロンティア基金では、皆様のご意思をお預かりし、次の世代へとつなげるため、「遺贈」についてご案内しております。本基金が皆様の将来設計の一助となりますと幸いです。

ご生前

1 遺言によるご寄附について卒業生・基金室へご相談ください

2 遺言執行者をご指定いただきます

遺産の引渡しや登記などの手続きを行うときに、法律や財務、不動産登記などの知識が求められることがあるため、遺言執行者には弁護士、司法書士、行政書士、信託銀行などの専門家を指定されるケースが多いようです。

本学では下記の金融機関と協定を結んでおりますので、ご紹介も可能です。

北大フロンティア基金が提携している金融機関 ●三井住友銀行 ●三井住友信託銀行 ●三菱UFJ 信託銀行 ●北洋銀行

3 遺言書の文言表記について確認がある場合がございます

法的に有効で執行できる遺言書を作成するため、遺言執行者から北海道大学に対して、遺言書の文言表記などについて確認が行われることがあります。

※ご本人の了承なく、遺言者の個人情報を遺言執行者と北海道大学の間で共有することはありません。

4 遺言書を作成いただきます

民法で定められた代表的な方法として、「公正証書遺言」と「自筆証書遺言」の2種類があります。相続時のトラブルを防止し、遺言の内容をより確実に実現するためには、「公正証書遺言」の作成をおすすめします。

5 遺言保管中のご連絡について

遺言書の書き換えや転居などがございましたら、卒業生・基金室までご連絡ください。

ご逝去後

6 遺言執行者へご逝去のお知らせをいただきます

遺言執行者にご逝去のお知らせが届くことで、遺言の執行が開始されます。お知らせがない場合は遺言書のご意思が実現されなくなるおそれがありますので、遺言執行者にご相談の上、ご家族や信頼できる方などから通知人を選び、あらかじめ遺言執行者へ連絡する手順を確認しておくことをお勧めします。

7 遺言書の開示があります

8 遺言執行と財産の引渡しがおこなわれます

北海道大学に遺贈いただいた財産には相続税が課税されません

「遺贈のご案内」パンフレットの請求はこちらから ▶



寄附者の皆様への御礼

銘板の掲出

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます(個人・法人共通)。

Plate Type



寄附者名
(個人名または法人)

プレミアムゴールド
累計1億円以上のご寄附



寄附者名
(個人名または法人)

ゴールド 累計1,000万円以上のご寄附



寄附者名
(個人名または法人)

シルバー 累計500万円以上のご寄附



寄附者名 (個人名または法人)

ブロンズ 累計100万円以上のご寄附

その他の御礼

御礼	個人	法人
冠基金 (法人の場合は寄附講座を含む)	1,000万円以上	3,000万円以上
レザートレイ	10万円以上	
マルチクロス	1万円以上10万円未満	
広報誌へのご芳名掲載	掲載を希望されるすべての寄附者 北大クラウドファンディングへのご寄附については掲載していません。	

ご寄附の金額に応じて、感謝状の贈呈や御礼の場をご用意させていただきます。その他、ご寄附の用途に応じて、各学部からも特典をご用意している場合がございます。



北大フロンティア基金へご寄附を賜りました皆様へ、感謝の気持ちをお伝えさせていただきました。

この場をお借りして、改めて深く感謝申し上げます。

紺綬褒章の伝達

紺綬褒章の授与候補者として本学よりご推薦させていただいた方へ、総長より授与決定の伝達をさせていただきました。



アジア航測株式会社 様 (令和4年7月22日)



宮脇 敬 様 宮脇 慶子 様 (令和4年11月14日)

※紺綬褒章は、公益のために私財(個人の場合500万円以上、法人の場合1,000万円以上)を寄附した方に国から褒章を授与する制度であり、国及び地方公共団体の他に指定された「公益財団」も対象となります。本学では、平成29(2017)年11月以降の対象者に対し、ご意向を伺い推薦を行っています。

感謝状の贈呈

累計100万円以上のご寄附を賜りました皆様へ、感謝状を贈呈させていただきました。



一般財団法人
砂防・地すべり技術センター 様
(令和4年6月2日)



大地コンサルタント株式会社 様
(令和4年6月3日)



真屋 幹雄 様
(令和4年6月8日)



鈴木 正司 様
(令和4年6月8日)



株式会社日立製作所 様
(令和4年7月7日)



積水化学工業株式会社 様
(令和4年7月22日)

※()内の日付は贈呈日



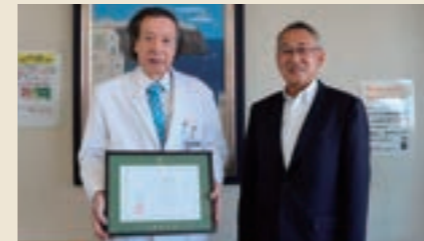
アジア航測株式会社 様
(令和4年7月22日)



湯川 康史 様
(令和4年8月9日)



北海道ガス株式会社 様
(令和4年8月18日)



原田 一道 様
(令和4年8月19日)



眞柄 泰基 様
(令和4年8月22日)



日本甜菜製糖株式会社 様
(令和4年9月16日)



江別市立病院 様
(令和4年9月20日)



山口 利昭 様
(令和4年10月4日)



土屋 努 様
(令和4年10月20日)



木山 邦樹 様
(令和4年10月26日)



「第29回北海道大学衛生工学シンポジウム」(令和4年11月4日)

(左から)

- 株式会社日水コン 様 ● 前澤工業株式会社 様
- 株式会社東京設計事務所 様 ● いであ株式会社 様

(右から)

- 株式会社クボタ 様 ● 株式会社タクマ 様
- クボタ環境エンジニアリング株式会社 様
- メタウォーター株式会社 様



田中 利男 様
(令和4年11月9日)

※()内の日付は贈呈日



北海道放送株式会社 様
(令和4年11月10日)



李 宇新 様
(令和4年11月11日)



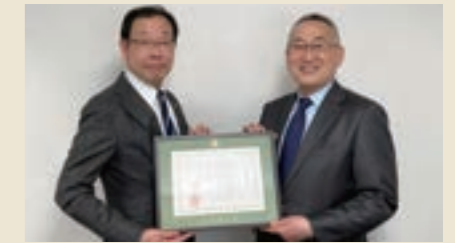
明治飼糧株式会社 様
(令和4年11月22日)



共和煖房工業株式会社 様
(令和5年2月17日)



北日本フード株式会社 様
(令和5年2月24日)



ニチレキ株式会社 様
(令和5年3月10日)



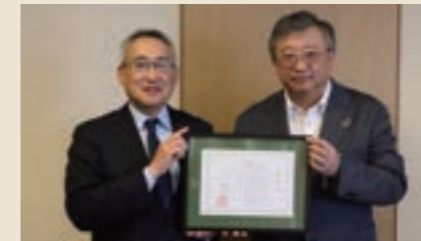
株式会社木村工務店 様
(令和4年11月24日)



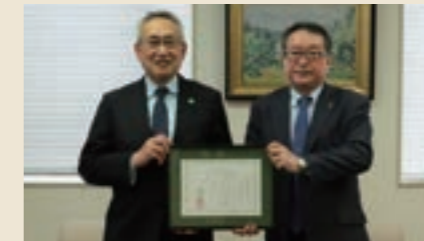
西村 修 様
(令和4年11月29日)



株式会社クボタ 様
(令和4年12月2日)



生活協同組合コープさっぽろ 様
(令和5年4月13日)



北海道酒類販売株式会社 様
(令和5年4月14日)



日糧製パン株式会社 様
(令和5年4月14日)



中村 和正 様
(令和4年12月5日)



米田 穂 様
(令和4年12月16日)



株式会社アミノアップ 様
(令和4年12月21日)



認定特定非営利活動法人
環境リレーションズ研究所 様
(令和5年4月17日)



北海道コカ・コーラ
ボトリング株式会社 様
(令和5年4月28日)



株式会社バッファロー 様
(令和5年5月8日)



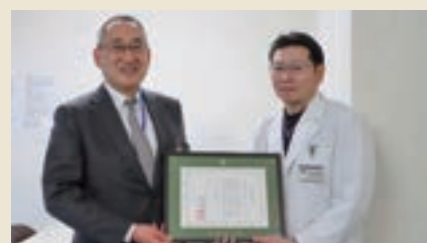
橋本 徹二 様、橋本 千恵子 様
(令和4年12月22日)



株式会社北洋銀行 様
(令和4年12月23日)



石山 喬 様
(令和4年12月23日)



医療法人社団憲仁会牧田病院 様
(令和5年2月1日)



株式会社NIKI Hills ヴィレッジ 様
(令和5年2月7日)



株式会社学生情報センター 様
(令和5年2月16日)

郵送の方々のご芳名 ご郵送させていただきました皆様につきましてはご芳名を掲載させていただきます。

- ◎ 岩崎 卓夫 様 ◎ 上田 昭平 様 ◎ 大野 泰熙 様 ◎ 加藤 紘之 様 ◎ 齋藤 健一 様 ◎ 志済 聡子 様 ◎ 下沢 英二 様
- ◎ 高野 晃吉 様 ◎ 武政 栄治 様 ◎ 伊達 広行 様 ◎ 中村 雅夫 様 ◎ 長谷川 敦 様 ◎ 花田 真吉 様 ◎ 花田 裕子 様
- ◎ 福原 啓之 様 ◎ 三上 隆 様 ◎ 山下 裕久 様 ◎ 吉田 英之 様 ◎ 渡邊 伸弥 様 ◎ 渡邊 志のぶ 様
- ◎ 認定特定非営利活動法人環境リレーションズ研究所 様 ◎ 株式会社コンベンションアカデミア 様 ◎ 有限会社札幌庭園工業 様
- ◎ 株式会社JTBPパブリッシング 様 ◎ 社会医療法人製鉄記念室蘭病院 様 ◎ 株式会社馬場本商店 様 ◎ 古野電気株式会社 様
- ◎ 北海道ワイン株式会社 様 ◎ 株式会社ルピシア 様 ◎ 独立行政法人労働者健康安全機構北海道中央労災病院 様 ◎ 株式会社クレタ 様

ご案内

令和5年3月より、創基150周年を記念した銘板を掲出させていただくなど、謝意の内容が変更となりました。今後も、寄附者の皆様とご縁を大切に、感謝をお伝える場を設けさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

※ ()内の日付は贈呈日

※ ()内の日付は贈呈日

150th

HOKKAIDO UNIVERSITY



表紙・裏表紙写真 北海道ワイン教育研究センター棟・熟成庫

北海道大学 社会共創部広報課 卒業生・基金室

〒060-0809 札幌市北区北9条西6丁目 北海道大学 百年記念会館内

Tel 011-706-2017 E-mail kikin@jimuhokudai.ac.jp

Fax 011-706-2010 Web <https://www.hokudai.ac.jp/fund/>

北海道大学 東京オフィス

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7-12 サピアタワー10階

TEL/FAX 03-3211-2055

令和5(2023)年9月発行